

根源的な授業で再び出会った、子どもたちと教師 ～ 呼応する個と個、変化を求めて～

有限会社 カヤ 代表 平井良信

はじめに

この「あなたへ」シリーズを使った授業は、教科学習とは違って予め答えは用意されていない。自分自身で考えて考えてたどり着いたところが最終の各個人の答えになる。有り体に言えば、考えれば考えるほど分からなくなり「答えが無い」と言う答えもあるに違いない。例えば「ひとり」と「ひとりぼっち」って違う？という問いかけ。そんなことを今まで一度も考えたことがなかったであろう子どもたち。このような哲学のような問いかけの連続の中での授業を小学6年生が10回も行い考えに考え抜いた。そこでは、教師もその「問いかけ」から逃れることはできない。教師が今までしかるべき学校で学んだ事でもないと思われるし、教師自身が今まで体験してきたことを基本に考えるしかない。つまり教師の生き様が浮き彫りにされる。そして、まさにその瞬間に子どもたちも立ち合うことになるのである。子どもたちと教師の真剣勝負の場でもある。

さて、根源的な問いかけが続く10回の授業を経て、子どもたちと教師はどのように推移し変わっていったのであろうか。ここでは根源的な問い掛けは、子どもたちを変える、そして教師をも」というひとつの仮説を基に彼等の動きを追うものである。

教師の意志の方向

この授業を始める前に教師はこのような目標を立てた。

授業を終えて「南波朋美 2008、教師の意図と授業の展開」(非公開資料)より

- ・自分の気持ちに気づき、友達の気持ちを知る。
- ・自分や友達の気持ちをお互いに共有する。
- ・自分をまわりの人との関係の中でとらえられるようにする
- ・そして、建前ではなく本音で話せるクラスにしたい。

また、「一人でいても良いし、時には嫌われてでも、自分の気持ちのままに動けるぐらいの強さや自信があっても良いのではないか」とも表現している。

1学期に子どもたちの人間関係に多々問題があったようで、それを受けてこの授業実践が始まった。本音で話せるクラスとはいったいどんなクラスなのか。それは端的に言えば信頼し合っているクラスであろう。ではどうすれば信頼できるクラスになるのか。その大きな問題を抱えて、教師自身も期待しながらも不安な出発であった。



実践の流れの中で

選びに選んだ絵本 4冊を材料に指導案をつくり 授業構成を考え工夫し 狙いをもって実践を繰り返していく。毎回子どもたちにしっかり自分自身を見つめ、今までにない概念をも知り 違った立場になって考えてみるという命題も提示していく。何回も何回もねばり強く問いかけていく。そしてねばり強く子どもの応答を待つ。まるで、手振り身振りで子どもたちをあたたく誘うように。しかし、教師はそういった事がどこまで子どもたちに届いているのかしばしば疑問に感じている。それは子どもたちが予想した範囲内での言動しかしないという結果を見てそう感じたのである。予定調和の綺麗事でしかないのではないか。これは、子どもの想像力の範囲内で先回りされているかも知れない。もしくはこのぐらいでもいっではないかという勝手な自己規制なのかも知れない。その枠組みを崩さねばと教師は、逡巡しながらも根源的な問いかけを続けていく。

そして、気づいて欲しい、変わって欲しいと願い続けて授業を進める教師に、時々ではあるが子どもたちに変化の兆しがあった。しかしまた元に戻ったと思うこともあり 試行錯誤の連続でもあった。その都度深く反省をし、この授業の時間だけではなく、日常の合間の時間にも子どもたち各々と話し込んだりもしている。



そうこうしている内に教師はふと感じたのかも知れない。子どもたちが想像した範囲内でしか行動しないのは教師である自分も含めた大人たちに責任があるのかも知れないことを。それは、自分自身がこの根源的な問いに向き合っているのか、傷つくことになるかも知れない自我ととことん対話したことがあるのかということである。そうすれば、教師然とせず子どもたちの前に素直に立ちつくすことによって、想いの距離が離れているのではなく、手の届くすぐ側になるかも知れない。新しい関係が生まれ、それは教え教えられるという世界をも超越している。

そういった「場」にいるからこそ、安心して子どもたちは真剣に考えるのだろう。誰かがどう思うか

など気にせずなりふり構わず、これしかないという自分自身が答えを導き出す勇気を得た。自由奔放で闊達な想像力が喚起されその結果である表現は、一気に子どもたち同士と教師との距離を縮めたのである。



教師は授業のなかでこのようにも感じていた。

必死にならざるを得ない子どもの様子を見ながら、私自身すごく揺れてつらかった。子どもが自分のことに悩み揺れているように、私自身も子どもと全く同じように揺れていた。<中略>子どもが表現してくることに必死で追いついていこうとしていたように感じる。<中略>私自身が日々子どもたちと過ごす中で何を感じるかが問われていることも強く感じた。」 授業を終えて」南波朋美 2008 より

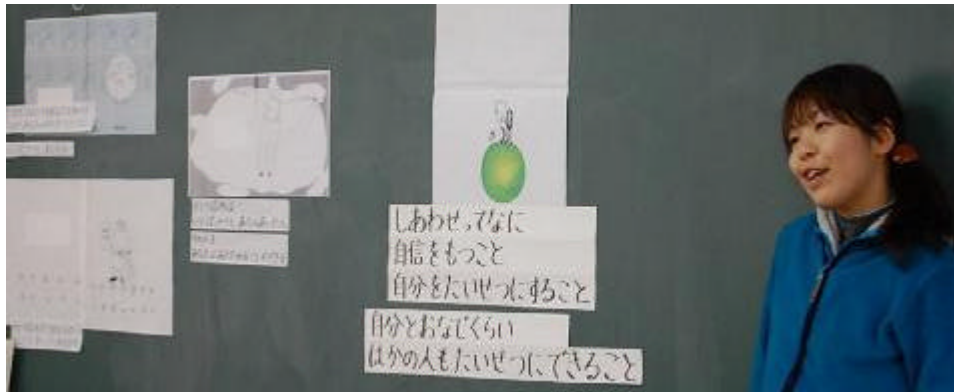
このように、授業の流れの中で子どもたちも苦しみながら考えたが、教師も子どもたちと同調するかのように苦しみ悩んでいる。

更に、子どもたちの感情の表出であるワークシートやハートの絵などの表現に触れ「先生はどうなの?」と問われていると感じている。教師という立場でこの感覚をもてる事はすばらしい事である。子どもたちと同じ地平線上に立っている。根源的な問いかけを持った現場では、教師と児童といった関係は成り立たない。いつも同じ線上で語られなければならない。

しかし悩み苦しみながらも教師は子どもたちにもっともつとを求める。

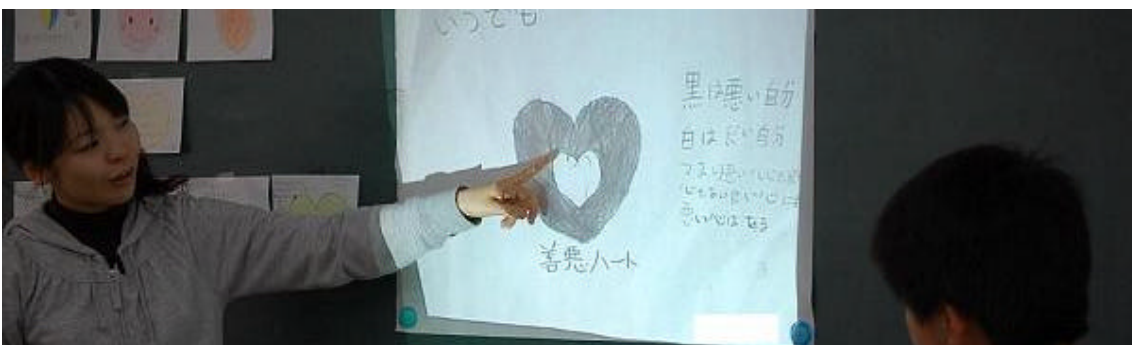
教師の根源的な問い掛けや教材に刺激され沸き立つ子どもたち。そして実直に側にいる教師。そこには分からなくても、考えて考えて考えてたどり着いたその先に、何かを見ている子どもたちがいる。人間としての根源的な学びは子どもたちにしっかりと根付くのであろう。教師はその為の「場」をつくり、考える角度やパターンをいろいろ変えながら提示し、子どもたちの考えを促進させる。もちろん教師もその「場」にいる。同じように汗を流し涙を流す。また発表という形で子どもたち同士の学び合う世界も保証している。考えれば考えるほど、いろんなことを思い描く。もちろんそれは12才の頭の中でのことである。そして、いろんな意見や発表を聞きながら、同意したり反発したりしながら更に自分の考えを進化させていくのである。他の級友の考えも熟考の後ならば納得

しながら自然に受け入れられるではないだろうか。



第7回 いままでの絵本「ひとりぼっち」「しあわせ」を振り返った

そう言ったプロセスを踏まえることで、未開拓な部分の想像力が刺激され、苦しみながらも考えることの楽しさを知った子どもたちに大きな変化が訪れた。







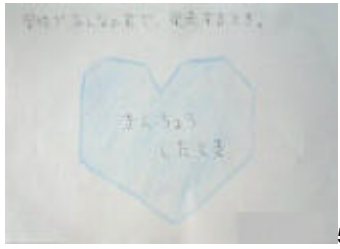




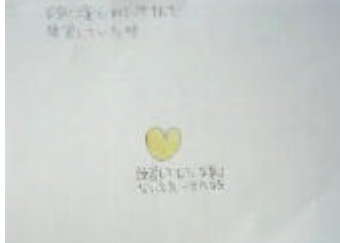
みんなのハートを発表する(第8回)






敢えてここに24名(32名中)の10回の授業終了時の感想とハートで自分の気持ちを表現した記録を掲載する。ここに全てが集約されていると言っても過言ではないであろう。

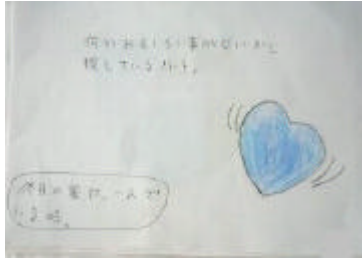



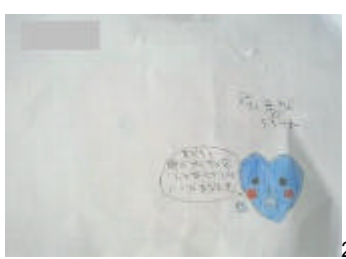
そのなかで難しくて訳がわからなかったけれど楽しかったと16人(クラスの半数)も表現しているし、2名は時間が経つのが速いと感じたと書いている。それは、根源的な問い掛けに苦しむ自


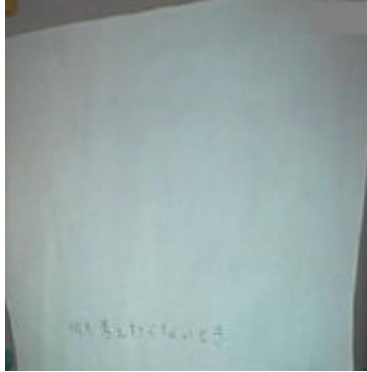
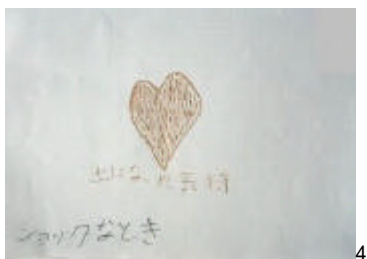

分をしっかりと見つめ続けその中に喜びを見いだすという体験を何度も繰り返して、その結果新しい自分との出会いがあったのではないだろうか。また、難しさや苦しさから楽しさに変わっていくことや、イメージーションの中でまるで遊んでいるかのような感覚に陥っている様子が伺われ、変化していくことを実感している。それは人間として最も重要なことなのではないだろうか。子どもたちは、悩んで悩んで悩み抜いたはずなのに、最後には何かをつかみ取り自信を持って胸を張りなおかつ清々しさを感じているようにも見える。また、ハートの絵で表現することで自分自身を再発見し、その面白さのあまり喜々として何枚も描いている子どもが多数存在している。

児童	感想 (抜粋)	ハートで自分を表現する 7回目の授業 2008.1.22
a	<p>さいしょはおもんなかったけどあとからのしくなってよかったです。</p> <p style="text-align: center;">学校で宿題すくないとき</p>	 <p style="text-align: right;">4枚</p>
b	<p>「自分の中にそういえばこんな気もちもあったな～」で思い出すこともできた。</p> <p>6年でこの授業できてよかったと思う 自分の気持ちに向き合えてよかったと思う ぜんぶがうれしくて、楽しくて、よかった。この本を作ってくれた人ありがとう！！</p> <p style="text-align: center;">好きなことやってしあわせうれしいって感じる時</p>	 <p style="text-align: right;">2枚</p>
c	<p>自分のことに気づけた。</p> <p>この授業は5年間でやったことがないべんきょうなんだなあとと思った。しんけんにやったら いやだ ら、時間がながかったけどたのしいと 時間がたつのがずっとはやくかんじた。</p> <p style="text-align: center;">やすみじかんそばにいてくれるときのハート</p>	 <p style="text-align: right;">3枚</p>
D	<p>いままでやってきたことはたぶんわすれないと思います。</p>	 <p style="text-align: right;">1枚</p>

d	<p>「ゆき」この本はいっぱいやんだしめちゃ考えた。でも考えた分、こうゆえ答えが出た。 この本がいちばんめんどくさかったけど、答えがでたときのよろこびは何倍もうれしかった。 学校でみんなの前で発表するとき きんちょうしたとき</p>	 <p>5 枚</p>
e	<p>「ゆき」の本も最初考えるところがむずかしくて、悩んだこともありました。でもみんなの発表を聞いて「ああそいうい考えもあったな」とか「同じ気持ちだ!」とかというふうに、友達の見えとのちがい、同じところを見つけられてよかったです。 人の役に立ててうれしいとき</p>	 <p>3 枚</p>
f	<p>じぶんのことがわかれてよかった。 とてもむづかしかった。そのときすごくうれしかった。 いっしょうわすれません。このことはしょう来やくにたつと思います。 とととととととととととととか みんなとなかよくできたとき</p>	 <p>8 枚</p>
g	<p>この勉強をして、大切なことがたくさん学べたと思う 大人になって思い出して、なんかのやくにたったりしたら本当にいいと思う これからもむずかしいと思うけど、たくさんこういうことを考えたいと思う びくびくするこわいハート</p>	 <p>7 枚</p>
F	<p>もっとやりたかったと思った。 始めはあまりわからなかった授業がいまになるとたのしくてうれしかった。このじゅぎょうをやってもものすごくべんきょうになった。 ケンカしたときの自分</p>	 <p>2 枚</p>
h	<p>このシリーズをして、とっても勉強になったし楽しかった。勇気はつくれるし、もらえるしあげられるんだなあと思いました。 発言するとうなずいてくれる人もいてうれしかった。 私はなみだが出るほど大切な事を勉強できてほんとうによかったと思いました。 練習してもむだな事はないと気づけた自分</p>	 <p>6 枚</p>

i	<p>「自分」では気付かなかった「自分」も見つけたりできたと思う。この授業の意味が分からなかった。今回学んだことに感動したし、すごく将来やくにたつなあと思った。今まで学んだことを忘れずにがんばっていきたい。</p> <p style="text-align: right;">いらいらしている時</p>	 <p style="text-align: right;">4枚</p>
J	<p>今までいろんな勉強をしてきたが意味がわからないことばっかだった。答えなんかないからどんなことをかけばいいか分からなかった。でも初めてそのことに分かったときおくが深いなあと思った。分からなくても考えることが大事なんだなと思った。(全文)</p> <p style="text-align: right;">燃えそうなくらい 苦しいハート</p>	 <p style="text-align: right;">4枚</p>
K	<p>難しくてきらいやったけどだんだんわかってきて楽しかった。</p> <p style="text-align: center;">友達が自分に対して悪いと思っていたことが自分はそんなに悪いと思 っていないとき</p> <p style="text-align: center;">水にながしてあまり気にしない自分</p>	 <p style="text-align: right;">1枚</p>
m	<p>難しいのにたのしくて友達のこと考えられるしこれはめっちゃ善い授業だと思った。</p> <p>国語とか算数とかでは、正しい答えをださなければなら ないから。でも10時間って長いと思っていたけど<中 略> あっというまになってしまう</p> <p style="text-align: right;">ともだちをつめたくしてしまったとき、自分もつめたい</p>	 <p style="text-align: right;">10枚</p>
L	<p>今まで考えことがなかったことを考えた。自分のことや相手の事を考えた。いろんなことを学べた気がした。</p> <p style="text-align: right;">自分でもびっくりするくらい元気な自分</p>	 <p style="text-align: right;">1枚</p>

M	<p>何でこんなわけのわからん授業するんやろ すこしずつ集中するようになった。 先生が問いかけることは、自分にだけの答えで、その 答えがみんなと共通していることは、ないんだなーと思 った。つまり 答えはないということだと思った。</p> <p>何かおもしろい事がないかと探しているハート 休日の家に一人でいる時</p>	 <p>3枚</p>
n	<p>ふだんはあまり気にしなかったことのすごさに気づけ り< 中略 > 最初この勉強はめんどくさいなと思ってい た。だけど自分で学べたことがいっぱいあって良かった と思う</p>	 <p>6枚</p>
p	<p>『ひとりぼっち』の時、自分の心をのぞかれたような気が しました。 1番最後の『ゆうき』。これは本当の自分をしる最高の手 がかりになった。ほんとうの心の底の自分がわかりまし た。この心を、見失うのかそうじゃないのかは自分が判 断しないとけないし、今までずっと1人だった心に光 をさしこんでくれたのはこの絵本でした。心を見失って どうすればいいのかわからない時にこの絵本に出会 えて(?)よかったと思っています。</p>	 <p>周りが明るくなった感じ 自分が頼れる人を見つけられたとき</p> <p>6枚</p>
Q	<p>いっつも考えないことを真剣に考えて、ちょっと難しか った。けれどだんだんたのしくなってきた。お気に入り は「しあわせ」です。一人一人ちがうしあわせがあって 感じ方もちがうと思いました。とってものしかたです。 またしたいと思いました。</p> <p>いろんなことにぶつかった自分</p>	 <p>3枚</p>
q	<p>めっちゃめんどくさかったけどこの勉強で、みんなのこ とがわかったきがした。 この授業したことをわすれずに、これからにやくだって いきたいなあーと思いました。</p> <p>友だちと遊ぶやくそくをしてなくて一人でいてひまなとき</p>	 <p>2枚</p>

r	<p>もう10回もやってるんだなと思った。 ちがう人の意見とかを聞いてこんな考えかたもあるなー となっとくを何回もした。</p> <p style="text-align: center;">だれかがこまっているときに</p>	 <p style="text-align: right;">5枚</p>
t	<p>あらためて人の気持ちの多さに気づいた。発見がいっぱいあった。自分のことで、こんなにも考えたことはなかったからいい経験をしたし、又考えてみたい。心のおくの本物の気持ちはかくそうとしているみたいだと思った。</p> <p>あんなにも考えたことはけっしてむだにならないし、これからの将来、きっと役に立つと思いました。こうやって考えるとは大人になっても必要だと思う メッセージをくれた先生たちにも、みんな良い出会いになったと感じた。この授業をして、とっても楽しかったです。</p>	 <p style="text-align: right;">4枚</p> <p>何も考えたくないとき」 白い線でハートを書いている。</p>
T	<p>最後のゆうきで自分の人生は失敗のかたまりだと思った。失敗をくり返してやっと成功する。そう思った。この学習をしてよかったと思う</p> <p style="text-align: center;">土になった気持 ショックなとき</p>	 <p style="text-align: right;">4枚</p>
U	<p>人の心やいろいろわかってこの勉強をしてよかった。もう十回もしてこの勉強がじぶんをかえていくと思った。</p> <p style="text-align: center;">友達にきもちをりようと思ってもつたえられない時 きもちがつたえられない時</p>	 <p style="text-align: right;">2枚</p>

特にこれらの感想を前にして、私は立ち竦んでしまった。

- ・ ぜんぶがうれしくて、楽しくて、よかった。この本を作ってくれた人ありがとう [b]
- ・ 時間がたつのがずっとはやく感じた [d]
- ・ 答えがでたときのよろこびは何倍もうれしかった [d]
- ・ むずかしいと思うけど、たくさんこういことを考えたいと思う [g]
- ・ 分からなくても考えることが大事なんだなと思った []
- ・ 難しいのにたのしくて [m]
- ・ つまり、答えはないということだと思った [M]

- ・自分の心をのぞかれたような気がしました [p]
- ・なっとくを何回もした [i]
- ・発見がいっぱいあった [†]

極めつけがこの言葉である。

- ・ この勉強がじぶんをかえていくと思った [U]

あきらかに今までの学びと違った形で彼等の中に浸透している。それは考えることの苦しさで楽しさ、もっと言えばその可能性を感じたのかも知れない。そして、今までの勉学とは違った感覚を持ったのではないだろうか。それは苦しくても辛くても想像すること考えること、その先にある気づきと楽しさ、そしてそこに行き着いたという喜び。その感覚は掛け替えのない「自信」へと結びつき、人間としての本来の学びを獲得したのであろう。私もその現場の片隅にでも立ち会えたことに感動を禁じ得ない。

最後に、教師はこのようにも吐露している。

子どもたちは私たちがやりたいと思っていることを感じ取って、難しいながらもそれに応えようとしてくれたように感じた。子どもたちの優しさの上で私たちはなんとか10回やらせてもらったんだと思った。この子どもたちはすごいなあと思った。」 授業を終えて」南波朋美 2008 より
担任教師は、子どもたちと共に悩み苦しみ抜き最後には思いを遂げたのではないだろうか。

また、これらの子どもたちの感想を読み、教師の「授業を終えて」(非公開資料)を読んで、林竹二の授業実践に似た結果が見えることに私自身驚いている。誰もが成し遂げられるものではないにしても、優れた「教材」と思いをもった教師の「方向」と粘り強い実行力があれば、結果は得られるのではないか。しかし、その根底には「人間としての根源的な問い掛け」がなければならない。

私は「根源的な問い掛けは、子どもたちを変える、そして教師をも」ということを確信した。

おわりに

実は、この授業で私も参与観察者として参加して二度ほど涙したことがある。それはその場にいただけではあるのだが、否応なく我々参与観察者もそれぞれの問いかけに反応しながら、特に教師の問いかけの言葉とその問いかけを受け止めている子どもたちの姿を間近に見ながら、その静謐な時空間に共振するように心奮わせていたからかも知れない。



(10回の授業が終わって参与観察者も子どもたちの前に出て挨拶させてもらったが、私は33番

目の生徒になったつもりで授業に参加していたと告白した。)

良い授業だった。確かな「想像力」と掛け替えのない「自信力」を培った子どもたちの今後に期待したい。

林竹二は、学んだということの唯一の証しは、何かが変わることだ」と言った。

担任教師の次なる挑戦として次回の「あなたへ」シリーズを使った授業を行うのであれば、それは、「開示する」というキーワードに沿って呼応する個と個をもっと見つめられれば、新たな実践に結び付けられるのではないだろうか。

更なる変化を求めて。

参考文献

- ・二文字理明・深谷馨・平井良信・濱内麻里・張 雅・近藤久史 (2007)
スウェーデンの教材「あなたへ」を活用した根元的価値形成の授業研究()
- 授業実践の基本構想と事例研究(その1)の概要 -
- ・二文字理明・平井良信・東泰弘・藤原翔子・松田義康・松山倫子 (2008)
スウェーデンの教材「あなたへ」を活用した根元的価値形成の授業研究()
2つの光の中に浮かび上がる授業研究(その1)- 参与観察者から見た教師と児童の変容 -
- ・二文字理明・平井良信・藤原翔子・松田義康・松山倫子 (2008)
スウェーデンの教材「あなたへ」を活用した根元的価値形成の授業研究()
あなたへシリーズに出会った子どもたちが培り出した嶺村先生の世界 授業研究(その2)
- 参与観察者から見た教師と児童の変容 -
- 南波朋美(2007・2008) スウェーデンの教材「あなたへ」を活用した授業 総合(心の授業)学習
指導案1~10 (非公開資料)
- 授業観察記(2007.10.31 ~ 2008.2.27)(非公開資料)
- 授業記録DVD、写真(2007.10.31 ~ 2008.2.27)(非公開資料)
- ・教師の意図と授業の展開」(非公開資料)
- 西川純(2005)「静かに!」を言わない授業 東洋館出版
- 西川純(2006) 学び合う教室 東洋館出版
- 岸見一郎(2007) アドラー心理学入門 KKベストセラーズ
- 林竹二(1986) 授業 人間について 国土社
- 林竹二(1991) 教育の根底にあるもの 径書房
- 林竹二(1978) 学ぶこと変わること 写真集 教育の再生をもとめて 筑摩書房